

## 「重度認知症高齢者に MTDLP を用いて環境適応が得られた事例」

**【事例紹介】** 80代前半の男性、妻と二人暮らし。脳梗塞発症により右同名半盲、右半側空間無視、失語症および認知症を呈した。急性期病院にてリハビリテーションを行い退院するが、肺炎にて再入院。退院後の高齢者の日常生活自立度はⅢbで、要介護5と認定された。事例は、紡績会社にて事務職として従事。退職後は地域活動に従事しながら、家庭菜園を行って暮らしていた。

**【作業療法評価】** 事例は HDS-R などの評価は精査困難であり、主訴は聴取困難であった。妻は、「何も言わないし、全く動けず移動も大変。」と介護負担を感じておられ、「とにかく歩けるようになって、近くのスーパーと一緒に買い物に行きたい。」「少し位は話したい。」と訴えていた。身心機能面は活動性低下に伴う筋力低下と、歩行能力の低下により手引き介助。また、顕著な認知機能面の低下に加え、失語、視野障害による影響があり、週4回のデイサービスご利用中はソファで閉眼し対人交流機会も少なかった。コミュニケーションは ACIS (コミュニケーションと交流評価) にて 31/80 点で集団活動時に協業を得られず、発話はオウム返しで作業遂行と参加に制約を認めた。活動レベルにおける身辺処理能力は FIM にて 45/126 点 (運動項目 32 点、認知項目 13 点) で、ADL 全般と、意思疎通の表出において低下を認めていた。

**【作業療法計画】** 最終目標 (6 ヶ月) を、自宅で家庭菜園を妻と行き、スーパーに買い物に行く事。長期目標 (3 ヶ月) を自宅で妻と簡単な日常会話ができる。当施設内で、他者と協業し作業できるとした。短期目標 (1 ヶ月) は、転倒無く屋内を歩き、相手の意図を理解し行動できるとした。週4回のデイサービスご利用時では、座席の位置は視野障害に配慮し全体が見渡せる場所に設定した。また、かつて行っていた床上での生活を再現出来る様に、床上で行えるレクリエーションや、TV を床上でみる時間を設定し、少量頻回に姿勢変換が促せる機会を多く行えるよう環境設定した。さらに、介護士へ事例の出来る事を情報提供し、コミュニケーション方法、レクリエーション指導、回想法などの指導を行った。日中の活動で不足するような機能的な練習を個別練習とし、レジスタンストレーニングやバランス練習などを機能訓練で補う事とした。

**【介入経過】** レクリエーションは視野障害に配慮した活動を行うことで反射的に四肢を動かす事が出来るようになり、職員や他ご利用者様からの声援に対し前傾姿勢で意欲的に取り組まれる姿が見られた。また、左隣のご利用者さんと顔を合わせて笑うなどの場面が増えた。回想法では過去のエピソードの想起を促した事で「よくやった。野球」などの語想起を促す事が出来た。環境調整では、座り直そうとしたり、肘をついて横になったり、何かをしようと立ち上がったりと動作で何かをしようとする自発的動作が見られた。さらに、天気の良い日は畑に出て野菜を収穫し笑顔が見られる。最近では、体調の自己管理の為に、近隣のスーパーまで歩いて牛乳を買いに行く練習を開始している。ADL の食事は、自らのペースで食べる事が出来ており、ひげも自ら確認しながら剃る事が出来た。脱衣場やトイレでは、環境に応じた目的動作が得られ介助量の軽減が図れた。ここ最近では「もっと勉強できるか?」と、物品呼称練習と依然日課として行っていたという「お勤め」(唱礼) に意欲的に取り組み、「いつもありがとうございます」と、深々と挨拶して帰宅しておられる。

**【結果】** HDS-R : 精査困難で、コミュニケーションはオウム返しを時折認めるが、状況に応じた挨拶などが正確に出来る様になった。歩行は自ら前方を探索し、直線は近位見守りとなった。妻からは「移動が楽になった。少し話せる、トイレに行くって言う時がある。」と笑顔が見られた。帰省された長男からも「元気になった」と、一緒に外食へ出る事が出来た。ACIS では 47/80 点と改善を認め、特に対象に焦点をあてるという項目で改善を認めた。FIM では 57/126 点と食事、入浴、更衣に改善を認めたが、排泄は変化を認めなかった。最近の一番の変化は、事例自ら「もっと、勉強したい」と希望があり、興味を持ちデイサービスに来られる事である。

**【考察】** 高齢者の ADL 改善には必ずしも高負荷の運動が必要ではなく社会生活を要した活動を考える必要がある (竹内 2012) と、言われている。今回、MTDLP を通じて、馴染みの畑作業を行い、床上での生活環境を調整したことに加え、集団レクリエーションなど対人交流を通しての社会的活動などが、ご本人様の意欲・興味を促し、ADL の意識付けを促せたと考える。その結果、自発的な環境に応じた行為を促せたと考える。

### 【検討課題】

自宅での過ごし方。自発的な活動を選択していけるような動機づけの方法